

オリ・パラ かわらばん No.1

香川県教育委員会

「オリンピックから学んだ事」



リオデジャネイロオリンピック日本代表

荻田 大樹 (おぎた ひろき)

(経歴)

香川県観音寺市出身、観音寺市立大野原小学校卒業、観音寺市立大野原中学校卒業
中学時より棒高跳びを始める

香川県立観音寺第一高等学校に進学 3 年次に国民体育大会少年男子 A で優勝
関西学院大学に進学、ミズノ入社 世界選手権に 2 大会連続出場、日本選手権優勝
186cm、80kg、兵庫県在住、28 歳、棒高跳び自己ベスト 5m70cm

皆さん、こんにちは。香川県の西の端、観音寺市の大野原町で生まれ育ちました、現在、ミズノで棒高跳びをしています、荻田大樹です。この度、長年の夢だったオリンピックに出場する事ができました。その中で、何か県民の皆様へ還元できる事はないかと思い、今回の経験を通じて感じた事、考えた事を体験談を踏まえてお伝えできればと思います。

リオデジャネイロオリンピックに向けての準備

まず試合に向けた移動、調整に関してですが、私は陸上競技の先発チームとして、試合の2週間前に事前合宿地であるアメリカのニュージャージーにある大学施設で調整合宿を行いました。なぜアメリカかと言いますと、このニュージャージーはブラジルのリオと時差が同じである事、また事前調整を行うにあたって施設が充実していた事などがあります。現地では、日本からコックさんと栄養士さんに帯同していただき、アメリカなのですが毎食、日本食を食べる事ができました。これまでも試合で何度も海外に行っていますが、やはり大きな違いが「食」です。アスリートは最高のパフォーマンスを発揮するために食事はとても大切な要素になります。短期であれば問題ないのですが、大体の場合は時差調整とコンディショニングを含めて2週間以上の長期滞在になるため、食事がパフォーマンスに大きな影響を与えてしまいます。私の場合だとインスタントの日本食や調味料(醤油など)、サプリメントなどをいつも携帯しています。このようにいつも気を遣っている部分を補っていただける事は、選手にとって余計なストレスがなくコンディショニングに集中できるため、とても嬉しいサポートでした。トレーニングに関しても、気温が20度~30度前後で乾燥しておりトレーニングをして汗をかいてもすぐ乾いてしまうため快適で、競技場はもちろん、インドアのウエイトトレーニング場、棒高跳びの跳躍練習場など、大学の施設とは考えられないような素晴らしい設備が揃っていました。

1週間ほど調整練習をして、決戦の地、リオに向かいました。選手村の前評判ほど悪くはなく、特に大きな問題もなく生活ができました。選手村内の食事は、食堂で24時間食べ放題で、ドリンクもミネラルウォーターや清涼飲料水、フルーツジュースなど生活する上で必要なものは揃っていましたし、日本の企業からスープやコーヒーなども提供をいただき、リラックスした時間を過ごす事ができました。

そんな中で一番問題だったのが「トイレ」でした。リオはまだ下水の整備があまりできておらず、またトイレトーパーが水に溶けない素材でできているため、トイレに紙を流してしまうとすぐに詰まってしまう。そのため使用後は横に置いてあるゴミ箱に捨てないといけません。公衆トイレは臭臭と戦いながら使用することが多く大変でした(笑)。どこに行っても思うのですが、やはり日本の文化、技術は素晴らしく、最高の環境の中で生活させていただいているんだと感じました。



<リオデジャネイロ現地にて>

リオデジャネイロオリンピック当日

そして、試合当日。ウォーミングアップを行っている時に、ふと4年前のロンドンオリンピックの最終選考会だった日本選手権を思い出しました。土砂降りの雨の中で、「日本一になってオリンピック選手になる」という強い想いで臨んだ事。そこで落とした最後の跳躍の感覚。応援に来てくださった関係者の方々の顔。そして試合後に家族に言った「オリンピック行けなかった。ごめん。」という言葉。そんな失敗を経験したからこそ、オリンピックというものに特別な想いを込めて臨む事ができたのではないかと思います。

辛かったり、諦めようかと思った時も、沢山の方々とのご縁があって少しずつ前に進むことができました。そんな方々に少しでも恩返しができるように、また笑顔で胸を張って帰れるように、「決勝進出、そして入賞」という目標を持って試合に臨みました。

結果は予選落ちという悔しい結果で終わってしまいましたが、選手としてあの舞台上で戦えた事、オリンピックという舞台上で自分らしく試合に臨めた事、また、そして何より沢山の方々から「勇気をもらった」「自分も頑張ろうと思った」とメッセージをいただいた事は、何物にも変えられない最高の宝物になりました。

私の大切にしている言葉の一つに「どんな素晴らしい結果を出しても、どんな感動の瞬間がきても、そこに人がいなければ何の意味もない。」という言葉があります。人と人との繋がりがあってこそ、そこに人としての価値が生まれるのだと、今回のオリンピックを通じて改めて感じる事ができました。知事、市長を始め、恩師の先生方や地元の皆様には、県を上げて盛大に送り出してくださいました事に本当に感謝しております。また、朝早くからパブリックビューイングを開催していただき、応援をしてくださった皆様、本当にありがとうございました。

東京オリンピックに向けて

ここで一つの区切りとなりますが、まだ前に進める可能性があると感じていますので、現役は続行したいと思っています。今年で29歳になる年齢を考えますと、次の東京五輪までは身体面等、ギリギリの中で目指す難しい挑戦になると思いますが、これまで通りひとつひとつ積み重ねて少しずつ前に進んでいこうと思います。今後はより一層、これまでの経験を活かして、お世話になった地元へ恩返しできればいいなと考えていますし、そのような場所を見つけていきたいと考えております。

「まだ辞めんと頑張るきん見よってつか!」
この先もこのような形で報告ができるように精進してまいりますので、今後とも、ご指導ご鞭撻、また、ご声援の程よろしくお願いた致します。



<メダリスト男子400mリレーメンバーと>



<あっ！荻田選手が2人！>